

北海道弟子屈町におけるサステイナブルツーリズム を中心とした持続可能な社会の模索

Searching for a sustainable society centered on sustainable tourism in Teshikaga Town,
Hokkaido

中西 芽依^{*1}

Nakanishi, Mei

^{*1} 北海商科大学商学部

近年、サステイナブルツーリズムに関する論考が数多くみられる。一方、コロナ禍が長期化するにつれて観光の在り方やサステイナブルツーリズムの考え方にも変化が見られ、今後分析・検討していくことが求められている。本稿では主に阿寒摩周国立公園地域に赴き得た情報やインターネットの記事、およびアンケート調査に基づき地域の現状を把握するとともに、これからの弟子屈町における観光の展望を提案したい。

キーワード：サステイナブルツーリズム、アイヌ文化、弟子屈町

1. はじめに

人類は今、貧困、気候変動、感染症など、これまでになかった数多くの課題に直面している。人類が将来にわたって安定してこの世界で暮らし続けていくために「持続可能な開発目標：SDGs」という具体的な目標が立てられた。持続可能な社会を創るため、一人一人がSDGsを考え、取り組むことが必要である。そこで、SDGsを観光という非日常を楽しむ行為で考えることで取り組みやすくなるのではなかろうか。すなわち、サステイナブルツーリズム＝持続可能な観光、の実践である。

観光の視点からSDGsを論じたものとして大橋（2017, 2021）がある。

まず、大橋（2021）は観光客たることの人間の本性はどのようなものか、サステイナビリティ意識の動態に着目して、観光客たちが観光を行うことを決める場合、一般的には、確かにサステイナビリティが第1の決定基準になることはないが、サステイナブルツーリズムに全く無関心ということはないことを明らかにしている。一方で、観光客の多くはサステイナビリティ志向でも、そのための支出増加まで認めるとは限らないものが多いと指摘している。つまり、サステイナブルツーリズムの実践にコストの発生が伴うため積極的になれないことが課題であることを指摘している。

また、大橋（2017）はサステイナブルツーリズムの発展に重要な要素をバックレー（Buckley, R.）の論考から、「人口」、「平和」、「繁栄」、「公害」、「保護」の5分野を挙げている。そして、サステイナブルツーリズムは日常と観光の間には本質的に同じで量的にしか変わらないが、主要課題の一つである「貧困の克服」の位置づけが低いことが問題であると指摘している。

以上の研究では環境に対する配慮や保持についての人々の意識を明らかにしているが、地域的な貧困や諸課題を解決することで経済発展につなげるにはどうすべきか、などの考察が不足して

いると考えられる。

阿寒摩周国立公園に位置し、町の65%が国立公園に指定される弟子屈町では「サステイナブルツーリズム」という言葉が浸透する前から、20年近くも観光を軸に持続可能なまちづくりが取り組まれてきた(やまごころ.jp 2022)。摩周湖や川湯温泉など、豊かで恵まれた自然環境があり、人口の約7割が第三次産業従事者である。このような観光に頼る弟子屈町の人口は1965年の13,622人から減少し続け、2015年には7,843人と、約半数にまで減少してしまった(日本の人口推移 2018)。

このことから、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりが急がれていると言える。すなわち、変化する観光の形態や趣向に対応することで、新たな雇用先を創出し育成することが持続可能な観光による地域振興に求められていると言えよう。

以上のような先行研究の現状と問題意識を踏まえて、本稿ではまずサステイナブルツーリズムの概要を整理したうえで、北海道内における魅力的なまちの特徴の分析を通じて、持続可能なまちづくりに向けたポイントを把握する。次いで、弟子屈町でのサステイナブルツーリズムの実践と住民の活動、及び住民の支援状況を明らかにする。これらを踏まえて弟子屈町の未来を考察して、観光頼みの地域の発展にどのような策が必要なのかを提案することを目的とする。

各地域には各地域なりの特徴を有しており、地域振興におけるサステイナブルツーリズムの動態をめぐる研究の発展には、一層の事例研究の積み重ねが必要である。本研究は、そういった点において貢献し得るものと考えられる。

2. サステイナブルツーリズムの概要と道内の現状

2.1 サステイナブルツーリズムの概要

サステイナブルツーリズムとは、エコという観点だけではなく、地域の自然環境を守りながら、観光業を活性化させたり、文化を大切にしながら観光地を作り上げることである(訪日ラボ n.d.)。

このサステイナブルツーリズムという概念が広がった背景には「マストツーリズム」という負の側面に対する反省がある。第二次世界大戦後の経済発展を背景として、これまで富裕層のみに限られていた観光旅行が、一般大衆にまで拡大した現象を指し、その旅行形態は団体旅行が主流であった(at home 2001)。

だが、観光が大衆化したことにより、様々な問題が発生した。観光地域に多くの人が訪れ、環境保全問題や多くの車が移動することで発生する排気ガスによる大気汚染、観光地でのマナーの欠如など、様々な「オーバーツーリズム」が発生した。このことから、「持続可能な観光地づくり」が求められるようになった(訪日ラボ n.d.)。

1995年には国連環境開発会議に基づき、世界観光機関(UNWTO)、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)、地球会議の3者により「観光産業のためのアジェンダ21」が表明された。2015年には国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されたことで広く注目されることとなった。

サステイナブルツーリズムはグローバル・サステイナブルツーリズム協議会により持続可能な観光の基準を4つの指標に分けられている。一つは、効果的で持続可能な経営管理の明示で戦略の策定や来訪客の満足度などのフィードバックをもとに計画を改善することである。二つ目は、地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化で、すべての人が差別や搾取を受けず、安全に過ごすことが出来る地域づくりを指す。三つ目に、文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化で、これは来訪者に文化や自然の重要性を伝えることである。そして四つ目に、

環境メリットの最大化、環境負荷の最小化で、エネルギー消費の削減や公害を抑制することが求められている。以上を踏まえ、次節では北海道内における魅力的なまちの特徴を抽出して、持続的まちづくりのポイントを把握する。

2.2 道内の魅力的なまちとは？

現在少子高齢化や人口減少によって、地域の社会・経済の信仰や文化継承の担い手が不足する現状が見られる。その一方で、人口が集中している地域が存在する。

図1は、1920年代に道内で人口上位を占めていた地域である函館、小樽、札幌、室蘭、夕張、釧路、苫小牧を取り上げて、1920年・1950年・1970年の3つの時期の人口動態をそれぞれ示したものである。

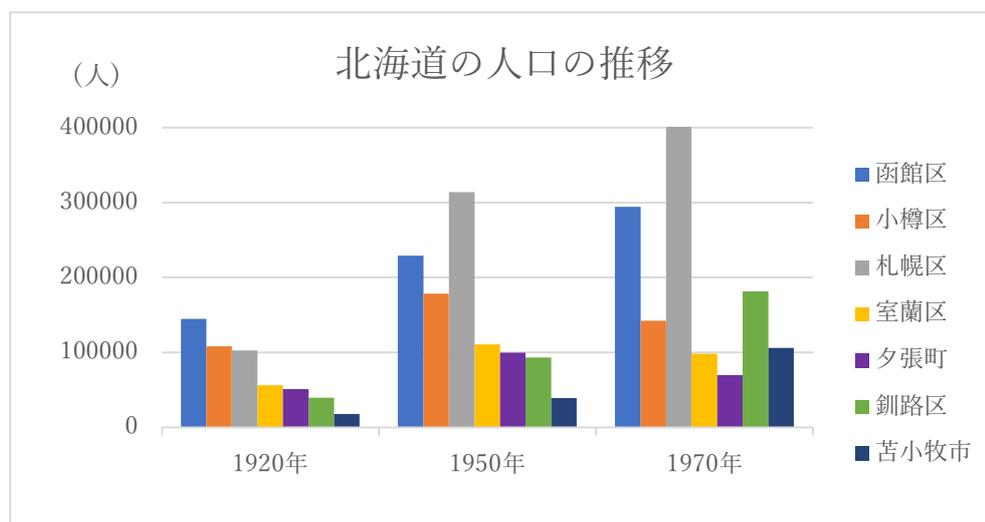


図1 北海道内人口上位の地域の人口推移
北海道ファンマガジン（2009）に基づき筆者作成
区は1922年の市制変更前に行政単位である。

1920年代の北海道の人口は、本州と北海道をつないでいる函館が1位であり、札幌は道内3番目であった。当時炭鉱が栄えていたことから、夕張町が上位に入っていたことがわかる。夕張町はこの後1980年をピークに人口が減少し続け、現在では1万人を切るほどになった。炭鉱が衰退すると人々は職を求めて札幌などへ移動することになったと考えられる。

人口が多く流れ込む理由の一つとして、就職先が多い地域であることが考えられる。2005年の国勢調査では、上位5地域に札幌市、旭川市、函館市、釧路市、苫小牧市と続いている。（北海道ファンマガジン 2009）上位5地域の特徴として、第1次、2次産業が盛んであることがあげられる。中でも釧路市、苫小牧市は北海道3大工業地域に入る地域であり、働き手が集中している。また子育て支援や医療機関の充実、生活保護の実態が人口にかかわると考えられる。

表1は「子育て支援の充実」、「医療機関の充実」の上位3位の自治体を示したものである。子育て支援が充実している白糠町も、釧路市に近い位置にあり、工場が多いため、就職先があると表1 北海道内で充実している支援

	子育て支援の充実	医療機関の充実
1位	白糠郡白糠町	札幌市(2,758施設)
2位	上川郡東神楽町	旭川市(461施設)
3位	北斗市	函館市(375施設)

日本☆地域番付 (n.d.) より筆者作成

ともに、子育て支援が充実しているため子育て世代や働き手が集まっていると考えられる。2位の東神楽町も旭川市に近く、医療機関が充実しており、子育て支援も大きいことが分かる。

以上から、人口の多い地域とその隣接地は行政の支援や医療体制が充実していることがわかる。このことを踏まえ、居住地選択の決定要因を把握するために、以下のようなアンケート調査を実施した。アンケート方法はWEB調査で、対象はこれからの社会を担う15~25歳である¹。回答者数は男16人、女41人の57人である。質問項目はQ1「あなたがほかの町に移住するなら何を重視して移住しますか」とQ2「旅行をする際何を重視して目的地を決めますか」である。

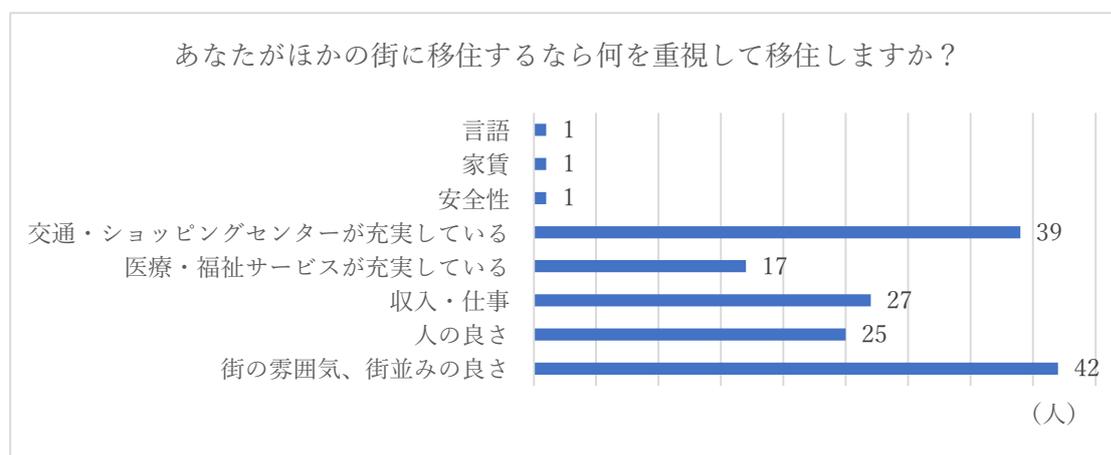


図2 Q1「あなたがほかの街に移住するなら何を重視して移住しますか」

Q1の結果を示したものが、図2である。最も多い回答は「街の雰囲気、街並みの良さ」の42人で、次が「交通、ショッピングセンターが充実している」の39人、「収入、仕事」は27人の3番目であった。移住の条件が必ずしも収入や仕事ではないことがわかる。

調査結果でも得られたように、約半数の人が「収入・仕事」と回答している。さらに多くの人が「街の雰囲気」や「交通」を重視するという結果となった。続いて、Q2の結果を見ていきたい。Q2の設定目的は移住するきっかけともなり得る旅行先の決定要因を探ることにある。

「その土地の特産物や食べ物がある」と「自然や風景が楽しめる」が46人と多く、次いで、「温泉がある」が29名、「おしゃれなカフェがある」が21名であった。また、アニメに描かれている背景画のモデルを探す聖地巡礼行動が14名である。ここから、人々は旅行の際に自然や

¹ 本研究でのWEB調査は、InstagramのストーリーでURLを記載し、アンケートを募ったものである。

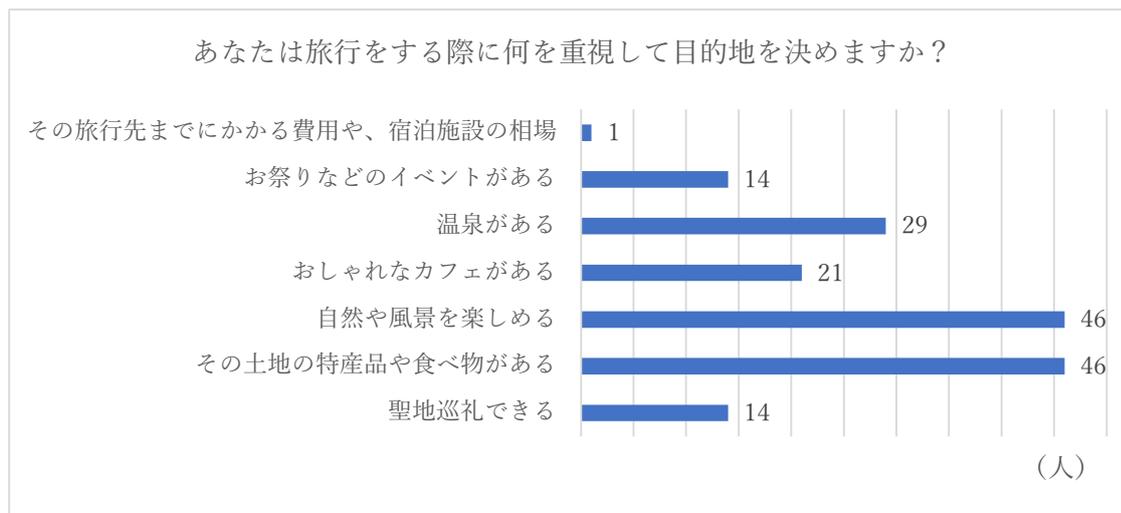


図3 Q2「あなたは旅行をする際に何を重視して目的地を決めますか」

風景を楽しむことだけを目的とするのではなく、約5人に1人が聖地巡礼やおしゃれなカフェがあることも旅行において重要だと感じていることが分かる。

以上から、人口が集中している地域は、行政支援や医療体制が充実している傾向が読み取れた。また、移住の理由にまちの雰囲気や交通、ショッピングなど、図3で示された選択数の多い動機に近い要素が多くあることから、人口集中地域にはこれらの要素が多分にあると考えられる。換言すれば、活性化を必要とする地域には職の充実や子育て支援、医療機関が近くにあること、そして余暇を楽しめる要素が重要であると考えられる。

3. 弟子屈町のサステイナブルツーリズム

3.1 弟子屈町の活動

では、20年以上前からサステイナブルツーリズムを実践してきた弟子屈町の活動は如何なるものだろうか。

弟子屈町の人口は2022年現在6,955人で、町の面積の65%が阿寒摩周国立公園に指定されている。自然豊かな観光地として知られ、摩周湖や硫黄山をはじめ、コタンアイヌ民族資料館などア

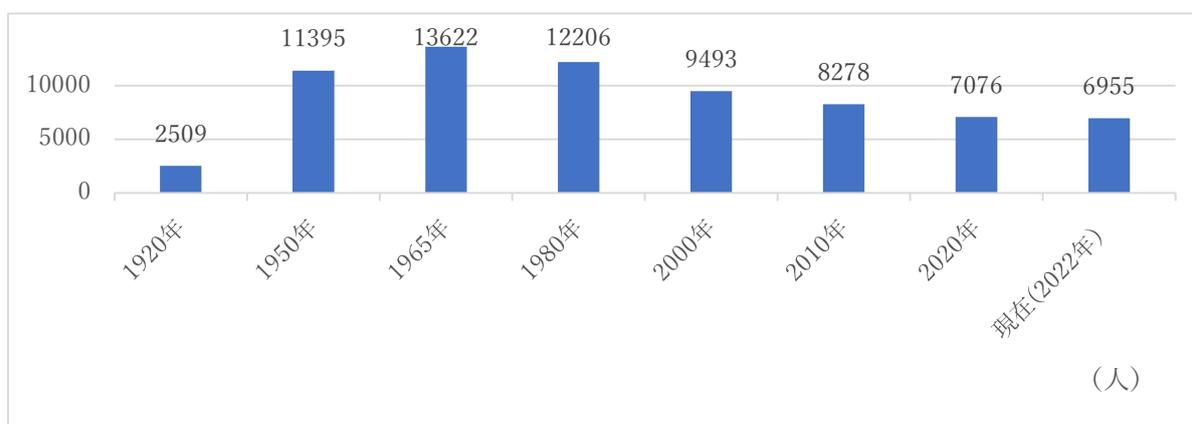


図4 弟子屈町の人口推移

日本の人口推移(2018)より筆者作成

イヌ文化が大切にされてきた。しかし、人口は1965年の13,622人から減少を続け、2000年に入るころには1万人を切り、現在では7,000人を切るまで減少した。このように、人口減少に歯止めがかからない状態では、自然や文化を存続するのは難しくなってしまうだろうと想定される（100年企業のすすめ 2022）。

では現在、どのようなサステイナブルツーリズムが弟子屈町で行われているのだろうか。まず、自然が豊かであることを武器に、様々なツアーが行われている。森林でのトレッキングや、屈斜路湖や釧路川でのカヌーやネイチャーボートのツアー、さらに湖畔で馬に乗って散歩ができる一風変わったものもあり、人気となっている。また、星空、雲海観察ツアーなどもある（環境省 n.d.）。つまり、地域資源が観光商品として造成されており、それを大手旅行会社といった発地側ではなく、着地側の弟子屈町が主体でなされている。

他方、住民が主体となって平成20年に「てしかがえこまち推進協議会」という専門部会を作られ、8つの専門分野に分かれて活動を行っている（表2）。このうち観光に直接かかわる部会は、エコツーリズム推進部会と情報部会、温泉部会、ユニバーサルデザイン部会である。特にエコツーリズムに関わる活動がなされていると想定される。ただその他の部会においても、食やアート

表2 てしかがえこまち推進協議会概要

エコツーリズム推進部会	観光を軸にまちづくりをする。全体構想、ガイドのスキルアップ講習会を実施する。
人材育成部会	子供を対象に星空観察会や会議の手法を学ぶファミリーテーション講習会の実施により町の良さを再認識する。
女性部会	女性目線でまちづくりを行う。地域の歴史を残す「昔語り」や町内外の交流会を実施する。
食・文化部会	食を通じて地域の価値を高め、また、地域内自給率を高めることを目的とする。地場産メニューのある飲食店を紹介した「MADE in てしかがガイド」の作成、地場産メニューの考案。
情報部会	弟子屈町観光情報ポータルサイト「弟子屈なび」、フェイスブックの運営、情報フォーラムの開催。
温泉街部会	温泉街の活性化を考案する。川の清掃や植樹活動、おもてなし能力の向上を行う。
ユニバーサルデザイン部会	障がいのある方や高齢の方の旅を支える。旅行のサポートやバリアフリーマップの作製などを行う。
アート・アド部会	アートによるまちおこしを行う。アートフェスティバルやコンテスト等のイベントの開催、町内へのアートの展示。また、協議会のアイディアの販売先として、地域の旅行会社「株式会社ツーリズムてしかが」設置

環境省（n.d.）より筆者作成

などの地域資源の創出部会の存在は先述の自然資源を生かした観光商品の提供に対して、環境に

配慮した自律的な運営は観光資源になり得る素材であり、あるいは女性部会による地域の歴史の発掘は、観光地として新たな付加価値となり得るものである。また、少子高齢化が進む中で、バリアフリーや旅行の手助けなどが、今後重要になってくるだろう。そして人材育成はそれらを未来へ継承していく作業である。この他にも、「弟子屈地域おこし協力隊」として、元アナウンサーや、弟子屈町に魅了された外からの人で地域の活性化を推進する手助けをしている。

3.2 弟子屈町の子育て支援状況

他の地域よりもランキング等に目立って出てくることもないが、弟子屈町では様々な子育て支援が行われている。表3はそれらをまとめたものである。

表3 弟子屈町で行われている子育て支援

名称	対象と概要
物価高騰対策支援金	コロナ禍の長期化における物価上昇に直面する低所得の子育て世代に1人一万円補助
保育園・幼稚園就園支援事業	該当施設の利用者が支払う保育料や副食費の半額を助成
乳児養育支援事業	出産された家庭に町内で使用できる金券15万円分交付
子育て応援医療費支援事業	高校生世代までのお子様がいる世代の保護者に対し医療費を全額負担する。支払った負担分を町内で使用できる金券に交換する。

HAGUKUMU (n.d.) より筆者作成

物価高騰対策支援金はコロナ禍対策としての臨時措置の性格だが、既存の支援事業を見ても子育て支援に手厚い補助がされていることがわかる。特に、子育て世代への医療費の全額負担はほかには珍しい手厚い支援なのではないだろうか。しかし、保育所が合わせて2つとは少ない状況である(HAGUKUMUn.d.)。やはり人手不足により、カバーするには限界がありそうだ。

以上の結果を踏まえ、次章では課題と提案を示す。

4. 弟子屈町の未来

弟子屈町では町内の自然を活かし、様々な町おこしに取り組まれてきた。さらに、アイヌ文化を後世に伝えるべく取り組みが行われている。その中で弟子屈町の課題を3点ほど挙げる。一つ目は、少子高齢化と人口減少の同時進行が見られること、二つ目は、第三次産業従事者が多いため観光頼みであること、三つ目は、知名度が低く、魅力が伝わり切っていないことである。そこで、知名度を上げ、弟子屈町の魅力を全国に伝え、最終的に移住してもらうことを目的として以下の3つの提案を行う。

(1) 広告効果

まずは、知ってもらうことが重要である。そこで、日本全国誰もが知っているであろう「サザエさん」のオープニングを使って広告効果を得る方法を提案したい。サザエさんでは番組のオープニングで毎回地域の観光地や食べ物が流されている。このオープニングに、弟子屈町の川湯温

泉や源泉の硫黄山、さらに摩周湖やアイヌコタンなどの観光地を描いてもらう。これは、地方自治体がアニメの制作会社に製作費を援助することで数か月間契約して放送してもらうという仕組みとなっている。実際に、福島県や東京都、静岡県など様々な地域が過去に放送されており、有効な広告効果の一つとなっている。

(2) 6次産業化

生産コストを抑えながら、地域の魅力を最大限表現することが重要であると考えられる。第1次産業が盛んな北海道では、1次・2次・3次産業の融合で新しい産業を育成する6次産業化の取り組みが盛んである。弟子屈町では特に、ジャガイモが特産品としてあげられる。地元で生産されたジャガイモなどの特産品を使い、地元で製造・加工することで弟子屈ブランドの確立を目指す。このように地産地消を図ることで新鮮さを売りにすることができ、「そこでしか味わうことが出来ない」特別感を発生させることが出来ると考えられる。また同時に、これらの特産品をとしてPRすることが出来る。

(3) アイヌ文化と現代的なカフェの融合

弟子屈町ならではのアイヌ文化を守っていくためにも、新しい方法で文化を楽しむことが出来ることが重要である。すなわち文化を感じさせるカフェの新設である。実際に、阿寒湖温泉町のアイヌコタンには「ポロンノ」というアイヌ文化を体験できる飲食店がある（筆者2022年11月25日訪問）。しかしながら、文化を楽しむことを第一の目的として観光に来る人は少なくなっている傾向にある。時代とともに流行は変化しており、それに対応していく必要がある。2章で実施したアンケートの対象者にQ3「カフェを選ぶ際に1番重視するポイントは何ですか？」という質問をした。

その結果を示したのが図5である。一番重視したいと考えられたのは「お店の内装、雰囲気（映えるなど）」だった。続いて「料理の美味しさ」、「価格」であった。実際、現代のカフェはドリンクだけで500円を超えるものが多く、人々の中で「価格」はさほど重要視されていないことがわかる。

では、「お店の内装、雰囲気」の重視という結果に対して、どのような対策をとればよいだろう

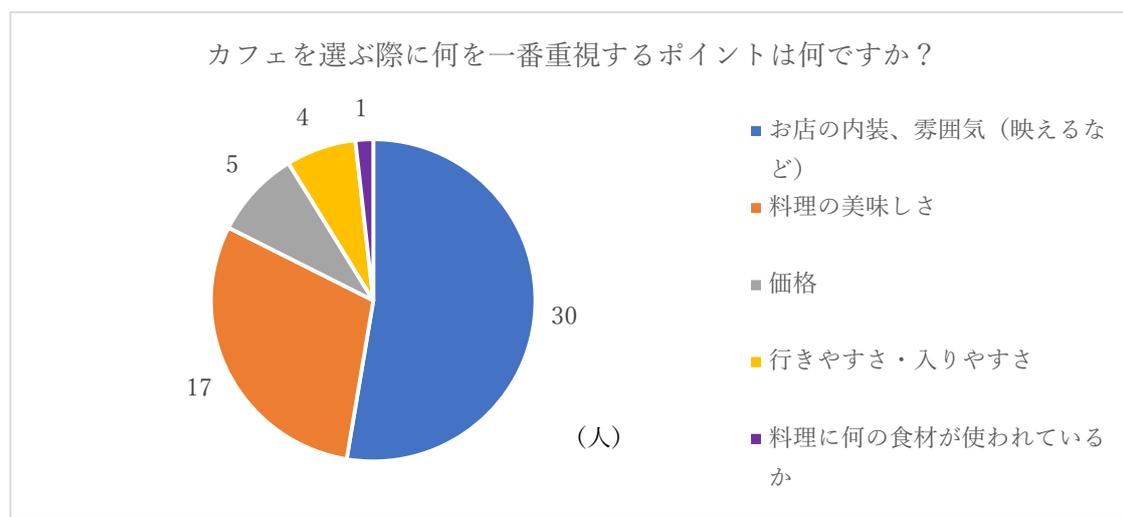


図5 Q3「カフェを選ぶ際に1番重視するポイントは何ですか？」
か。

参考事例として、2022年12月に東京新大久保にオープンした最先端カフェ「GUF」を取り上げ

る。「水に浮かぶチーズケーキ」が、まるでアートだと話題を呼んでいる。水を張ったテーブルの上に厚みのある皿にデザートが乗せて提供される新感覚なカフェである。ほかにも、有名建築家が店内を設計したカフェの壁には文字や映像が映し出され店自体がアート作品のように作られている。

このように内装にこだわり、さらに文化を同時に感じさせることが出来ると、新しく文化に興味を持ってもらえるきっかけになるのではなかろうか。

5. おわりに

本稿ではサスティナブルツーリズムを実施しているものの、人口減少に悩まされている弟子屈町を事例に、未来に向かってどのような策が必要なのか検討した。

まずはその前提として、持続的な町づくりにとって必要なことは何かを検討した。その結果、人口集中地域では、就職先や行政の支援及び医療体制の充実だけではなく、観光地の要素、すなわち非日常の存在も重要であることを明らかにした。これを踏まえて、弟子屈町は持続的なまちづくりに向けての課題を抽出し、人口の増加を目指す方策として、効果的な広告と6次産業化、アイヌ文化と現代的なカフェとの融合を提案した。

このように本稿では弟子屈町におけるサスティナブルツーリズムを中心とした持続可能な社会の構築の方向性を提案した。このことは、地域振興におけるサスティナブルツーリズムの動態を探る研究に対し、わずかではあるが貢献し得るものと考えたい。

ただ、提案した内容を弟子屈町の住民に諮り検証するところまでは至っていない。このように研究結果を実践へフィードバックする作業が今後の課題である。

【参考文献】(著者50音順)

大橋昭一(2017)「サスティナブル・ツーリズム原理論の展開過程—サスティナブル・ツーリズムの可能性を求めて—」『観光学』17,pp1-12.

———(2021)「ツーリストのサスティナビリティ意識について—サスティナブル・ツーリズムの成功要因—」『観光学』25, pp.61-67.

藤稿亜矢子(2018)『サステナブルツーリズム 地球持続可能性の視点から』晃洋書房.

【参考ホームページ】(著者アルファベット順)

@DIME(2022)「北海道で子育て関連サービスが充実している自治体TOP3、3位北斗市、2位上川郡 東神楽町、1位は？」(<https://dime.jp/genre/1419818/>)最終閲覧日2023年1月31日.

at home (2001)「観光はいつ生まれたか 前田勇氏」(https://www.athome-academy.jp/archive/culture/0000000133_all.html)最終閲覧日2023年1月31日.

デザインマガジン(2019)「有名建築家が設計したおしゃれなカフェ・レストラン14選」(<https://webdesignmagazine.net/famous-architecture-cafe-restaurant/>)最終閲覧日2023年1月31日.

HAGUKUMU (n.d.)「弟子屈町(子育て)」(<https://hagukumu-hokkaido.com/institution/11839/>) 最終閲覧日2023年1月31日.

訪日ラボ (n.d.)「サステイナブルツーリズムとは?定義・国内外の事例を解説」(<https://honichi.com/news/2020/12/29/sustainabletourism/>)最終閲覧日2023年1月31日.

北海道ファンマガジン(2009)「市町村別人口推移の歴史—函館が道内最大だった?」

- (<https://hokkaidofan.com/population01/>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 100年企業のすすめ(2021)「後継者不足はなぜ起こる?原因と対策方法を解説」(<https://toma100.jp/media/>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 医師求人サイトランキング (n.d.)「北海道 病院数・病床数 ランキング (<https://xn--nckg3oobb8486buug9sxs52a.biz/number-of-hospitals/hokkaido02.html>)」最終閲覧日 2023年1月31日.
- 環境省 (n.d.)「エコツーリズムススメ」(<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/index.html>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- Isuta(2022)「水に浮かぶ“チーズケーキ”はまるでアート作品。最先端すぎるカフェ「GUF」が新大久保にニューオープンするよ」(<https://isuta.jp/616266>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- NHK 政治マガジン(2022)「北海道夕張市の人口 7000 人を下回る歯止めかからず」(<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/lastweek/80748.html>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 日本☆地域番付 (n.d.)「北海道の住民1人あたりの生活保護費番付 - 都道府県・市区町村ランキング」(<http://area-info.jp.np.org/SehoPerPop010006.html>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 日本の人口推移(2018)「北海道弟子屈町の人口推移」(<https://population-transition.com/population-186/>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- (n.d.)「北海道の人口推移」(<https://www.population-map.com/hokkaido>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 農業ジョブ(2018)「6次産業化とは?事例で解説」(<https://agrijob.jp/contents/myagri/industries>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- ポロンノホームページ (n.d.)「アイヌ料理の店 民芸喫茶 ポロンノ - アイヌ料理の店 喫茶ポロンノ」(<https://www.poronno.com/>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- サザエさん公式ホームページ (n.d.)「日本全国サザエさんの旅」(<http://www.sazaesan.jp/trip.html>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 猿田彦コーヒーホームページ(2022)「店舗情報 | 東京・恵比寿のスペシャルティ・コーヒー専門店」(<https://sarutahiko.co/shop/>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 弟子屈町 (2021)「地域おこし協力隊」(<https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/iju/chiikiokoshikyoryokutai/index.html>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- 弟子屈なび (n.d.)「特産品紹介 (農産物)」(<https://www.masyuko.or.jp/tokusanhin/>)最終閲覧日 2023年1月31日.
- やまごころ.jp(2022)「持続可能な観光に20年近く取り組んできた北海道弟子屈町が目指す『エコ』なまちづくりとは?」(<https://yamatogokoro.jp/report/45635/>)最終閲覧日 2023年1月31日.